

## 5 飼料イネ・ホールクロップサイレージを育成期に給与した黒毛和種去勢牛の産肉性

## ねらいと成果

近年、子牛の育成期に粗飼料を十分に給与する「すくすく草育ち」や「すこやか子牛」といった育成法が再認識されている。そこで、育成期に粗飼料摂取量を増やす目的で、嗜好性の良好な粗飼料の一つである飼料イネ・ホールクロップサイレージ（飼料イネWCS）を5～7か月齢の育成後期に約2か月半、乾草と置換して給与した黒毛和種去勢牛のその後の産肉成績について検討した。

育成中の発育には差がなかったが、産肉性は、枝肉重量、バラの厚さ、枝肉単価及び販売価格で有意にイネWCS区が優れており、育成後期に飼料イネWCSを給与することにより、高値で販売可能な肥育牛となる素牛生産が可能であった。

今後、「すくすく草育ち」等の子牛育成に利用可能と考えられた。

## 内容

飼料イネWCSは、当センターで栽培した「兵系70号」を黄熟期に刈り取り、ロールバールサイレージとして2か月以上貯蔵したものを使用した。平成15年9月～平成17年3月に当センターで育成中の去勢牛37頭を供試した。試験牛9頭は、給与

粗飼料をすべて飼料イネWCSとし、日本飼養標準に準じて飼料設計を行った。対照牛は28頭で、チモシー乾草とオーツヘイを主体に同様に飼料設計を行い給与した。育成後の肥育は、播磨農業高等学校で実施し、出荷日齢は試験区が $985 \pm 73.4$ 日、対照区が $977.6 \pm 56.9$ 日であった。調査項目は、枝肉格付6項目と枝肉単価及び販売価格である。

育成中の飼料摂取量は、ほぼ設計どおりで、期間中の一日増体重（DG）は試験区で $0.96 \pm 0.01$  kg、対照区で $0.95 \pm 0.18$  kgであった。飼料イネWCSの原物での給与量は6.5～10 kg/日であった。産肉成績は枝肉重量、バラの厚さ、枝肉単価及び販売価格で有意であり、試験区が優れていた（ $P < 0.05$ ：表）。枝肉単価については季節による影響が考えられるものの、育成後期に飼料イネWCSを給与することにより、枝肉重量やバラの厚さが大きく、高値で販売可能な肥育牛となる素牛育成が可能であった。

## 普及上の注意事項

今後、飼料イネWCSの生産拡大が望まれる。

福島 護之（北部農業技セ・畜産部）  
（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

表 産肉成績

試験区	頭数	枝肉重量 kg	ロス芯面積 cm <sup>2</sup>	バラの厚さ cm	皮下脂肪厚 cm	推定歩留 %	BMS No.	枝肉単価 円	販売価格 円
対照 (乾草)	28	$384^a \pm 36$	$49.1 \pm 7.8$	$6.5^a \pm 0.7$	$2.2 \pm 0.4$	$73.3 \pm 1.1$	$5.8 \pm 1.3$	$2,365^a \pm 298$	$910,309^a \pm 169,698$
試験 (イネWCS)	9	$413^b \pm 30$	$52.6 \pm 7.3$	$7.1^b \pm 0.5$	$2.3 \pm 0.4$	$73.7 \pm 1.6$	$6.7 \pm 2.3$	$2,630^b \pm 473$	$1,091,067^b \pm 244,146$

a,b：同列異符号間に有意差( $P < 0.05$ )